

- 1 メールより手紙を書くよ猫柳
- 2 春めきてストッキングを履くマネキン
- 3 書き足しておいてね春の五線譜に
- 4 春光にさらして角砂糖かわいい
- 5 水温むライオンの目の赤と青
- 6 悔しいけど君と私は似ていて春雷
- 7 つくしんぼ持ち家がいいそれがいい
- 8 ジーンズを捲って春の海に入る
- 9 春の虹つまりくけれど転ばない
- 10 戦争のはなし向き合いわらび餅
- 11 風光る助手席に父乗せている
- 12 つばくらめ阪急電車追い越して
- 13 桜咲く頃に心配してあげた
- 14 琥珀色の目をした子猫に会釈
- 15 イヤホンの感覚残ったまま春眠
- 16 白熊はきれいでスイートピー散って
- 17 空気まで丸めてしまう桜餅
- 18 目を開けたまま死す象や花曇
- 19 春の月マーマレードの色をして
- 20 羊も恋をして眠れない春の夜
- 21 油絵もシャドウも指で塗る立夏
- 22 ラズベリータルト晴天でよかった
- 23 ペダル踏みはずして初夏のふたり乗り
- 24 返信を待つ純真な蝙蝠と
- 25 クロワッサンの層の多くて梅雨に入る
- 26 重力に負けて海月となつてゆく
- 27 夏空に溜め息缶ジュース開ける
- 28 肩掴まれ改札彼の腕に汗
- 29 夏草にカンガルーのいた痕跡
- 30 白玉を身体の一部にしちゃった
- 31 こんなにも猫あんなにも猫昼寝
- 32 七月に落つ焼夷弾バレリーナ
- 33 参謀のようにラムネの立っている
- 34 虹の端から結界を貼っている
- 35 角欠けて水羊羹ではなくなる
- 36 君が思うほどいい奴じゃないバナナ
- 37 聞こえなくもないかも山椒魚の声
- 38 夏野から見えるはずない冥王星
- 39 正気かと言われて夜の百日紅
- 40 夏の星鎖骨をなぞる指がある
- 41 フラミンゴ色に塗る晩夏の唇
- 42 怖いのは血と雷と母と海
- 43 ハーモニカ吹く船上や青葡萄
- 44 指が抜け落ちてしまうような大暑
- 45 プールから水に慣らしてゆくラッコ
- 46 向日葵のうなじの少し冷えている
- 47 スカートは宇宙の色をして晩夏
- 48 切りたての爪のにおいや星祭
- 49 トンネルへ入る八月のかくれんぼ
- 50 終戦日チョコレートパフェ老眼鏡

- 51 冷水に浸す両てのひら銀河  
52 サークスのライオン眠る日の流星  
53 女子も男子も同じ人間秋うらら  
54 爽やかやヘッドフォン首引っかけて  
55 木星から帰って来れないパプリカ  
56 秋雨やたわしのようなモルモット  
57 赤い靴の横へと梨の落ちるだろう  
58 レコードのひび割れ女学生の秋  
59 誰のためでもないクッキー積んで月  
60 指先から溶ける案山子を見ている子  
61 流れ星降るやクレームブリュレ割る  
62 秋の色ありパーマ屋のシャンデリア  
63 幸せと同時に怖いんだよ柘榴  
64 蟪蛄が死んだ何も言えずに死んだ  
65 台風は去って真昼のオムライス  
66 彼岸花の根本を見たことがあるか  
67 パンプキンスープいつの間にか家族  
68 晩秋の路面電車は猫を飼う  
69 林檎もぐその前にてのひらを見せろ  
70 秋霖をゆくプードルの聴導犬  
71 嫁姑問題いちじくの熟れる  
72 星月夜シーラカンスを釣る準備  
73 不機嫌なレモン防空壕のレモン  
74 月光と血とその他からできている  
75 ひとりでも地球は地球栗は栗
- 76 星見える森瓜坊に道をきく  
77 奇跡的りんご感覚的りんご  
78 火星から生まれたような秋の蝶  
79 柚子は黄に動物園の象は青  
80 立冬の機械じみてる望遠鏡  
81 感傷的に蜜柑を食べたくなつたの  
82 どちらかという猫派の冬休み  
83 泣きそうなくらい寒くてもひとり  
84 共感はできないココア飲みましょう  
85 寒暁の指に貼りつけられた爪  
86 焼きすぎた焼き芋を噛みしめている  
87 冬いちご摘むペンギンの誕生日  
88 ケーキ食って寝ようこんな冬だから  
89 僕がいて君とキリンのいて真冬  
90 公式に当てはめたら負けだよマフラー  
91 目の中に惑星あつて雪うさぎ  
92 理由なんてないでしよ毛糸編むことに  
93 居酒屋に三毛猫こゆびに霜焼け  
94 彗星を待つて炬燵の中にいる  
95 ラディッシュが布団に潜り込んできた  
96 凍蝶の体温を知るための策  
97 長生きはするけど死ぬよ冬帽子  
98 鯨浮くそんな未来はどうでしょう  
99 手袋をはずしてから手に触れたい  
100 抱くことはできないインコ冬の星